

4

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の
充実の視点

分野間の有機的な関連を図る

2017・2018年版学習指導要領に基づく社会系教科目の分野・科目構成

学校 段階	学年					
高等 学校	3	地理 探究	日本史 探究	世界史 探究	倫 理	政治・ 經濟
	2					
	1	地理 総合	歴史 総合		公共	
中学 校	3	公民的分野				
	2	歴史的分野		地理的分野		
	1					
小学 校	6	社会科				
	5					
	4					
	3					

- 標準単位数（1 単位時間＝50分、35単位時間＝1 単位）
- ・ 地理探究、日本史探究、世界史探究は各 3 単位
 - ・ 倫理、政治・経済は各 2 単位
 - ・ 地理総合、歴史総合、公共は各 2 単位（必修）

- 中学校社会科の標準授業時数（1 単位時間＝50分）
- ・ 公民的分野は、100単位時間
 - ・ 歴史的分野は、135単位時間
 - ・ 地理的分野は、115単位時間

- 小学校社会科の標準授業時数（1 単位時間＝45分）
- ・ 第 6 学年は、105単位時間
 - ・ 第 5 学年は、100単位時間
 - ・ 第 4 学年は、90単位時間
 - ・ 第 3 学年は、70単位時間

歴史的分野における考察、選択・判断

歴史的分野 目標の(2)

歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

社会的事象の歴史的な見方・考え方は、歴史学習において考察したり、選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」として用いられるものであると考えられる。**時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり**などとは、社会的事象の歴史的な見方・考え方に沿った視点の例を示している。…その際、例えば、

- ・ 「いつ（どこで、誰によって）おこったか」
- ・ 「前の時代とどのように変わったか」
- ・ 「どのような時代だったのか」
- ・ 「なぜ、おこった（何のために行われた）か」
- ・ 「どのような影響を及ぼしたか」
- ・ 「なぜそのような判断をしたと考えられるか」
- ・ 「歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか」

などの見方・考え方に沿った視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」が考えられる。

多面的・多角的に考察...する力については、歴史的分野の学習対象である社会的事象はそのものが多様な側面をもつとともに、様々な角度からや、いろいろな立場に立って追究することが可能である。そのためには、目標(1)で示した、**資料を適切に収集、選択、活用し、資料に基づいて考察、構想することも大切である。そのことが歴史における課題について「公正に選択・判断...する力」を養う基本となっている。**

見方・考え方を働かせて考察し、理解に向かうための資料の活用



教師の説明のエビデンスとしての活用

「このことはこの資料からわかりますね。」

「資料○を見てください。このように□□ですね。」

教師が説明することから生徒に示す

⇒ **（教師の文脈で進行）**

＜資料 → 解説 → 資料→……＞単線的

（生徒の問題意識、主体的課題意識は生まれにくい。「活用」はみられない。挿絵？）



課題（問い）としての活用

「この資料からわかることは何だろうか。」

「これら二つの資料から何が言えるだろうか。」



資料から生徒が読み取れることから教師が展開を考える

⇒ **（生徒の文脈で進行）**

- ・ 資料を生徒が「どのように見て」「解釈をして」（＝「見方、考え方」を働かせて）対話。
「考察し、理解」「資料を活用」するプロセスが生まれる → 結果的に知識が「身に付く」

C(2)「現代の日本と世界」の学習の構造

I 事象を考察し、理解

ア 「知識（及び技能）」に関わる事項

イ 「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項

ア(イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界

① 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に

④ 術の発展により、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解すること

「見方・考え方」を働かせて

課題(問い)を設定し

イ(ア)

② (諸改革の展開と国際社会の変化、) 政治の展開と国民生活の変化に着目して、

事象を相互に関連付けるなどして、

③ 現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること

ア(ア)「日本の民主化と冷戦下の国際社会」とア(イ)「日本の経済の発展とグローバル化する世界」をあわせて

II 時代の特徴を考察、表現

大項目の
まとめ

イ(イ)
現代の日本と世界を大観して、**時代の特徴**を多面的・多角的に考察し、表現すること。

III 歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について考察・構想して表現

構
想

イ(ウ)
これまでの学習を踏まえ、**歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方**について、**課題意識**をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する

考察を経た上での「構想」（根拠のない予想やイメージ、それまでの単元の学習の成果が踏まえられていない見通しや姿勢の表現とならないように、学習過程の工夫が大切）

公民的分野との有機的な関連

＜内容の関連＞ 図中のⅠ、Ⅱ

Ⅰの学習は、生徒の生活とのつながりや、日々のニュースなどに現れる日本や世界の動向などとの関わりなど、生徒の関心につながる教材や展開を工夫しやすい項目（一方で、概念的な枠組みについての理解が必要とされるものも多い）

→整理して、その中から公民的分野の学習に委ねるべき内容も明確にして、学習の構成を工夫する

➡**公民的分野の学習への関心を醸成すること**が大切

＜視点の関連＞ Ⅲの学習のねらい

- ・数多くの現代の課題について、知識を詳細に獲得させることではない
- ・生徒が考察や構想を深める中で、現代の政治や経済状況、法制度、社会的な合意形成へ向けての経緯など、**地理的分野や歴史的分野で学習してきたこと以外にも、課題の解決のために必要な視点が多様に存在することに気付くことが大切**

→（学習のねらいは）**公民的分野の学習へ向けた課題意識をもつことができるようにすること**（解説 p.121）

＜これまでの学習を生かした問いの例＞

- 現代の課題は、共通点を持つ過去の事例とはどのような違いがあるのか？
- 過去の出来事から現代の課題の解決のために参考となるのはどのような点か？
- 現代の課題の解決のために、新たに必要であると考えられる視点は何か（新たに何を調べると良いと思うか）

C(2)イ(ウ) 「構想し、表現する」学習について

新たな知識は設定されていない

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、<u>解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。</u>

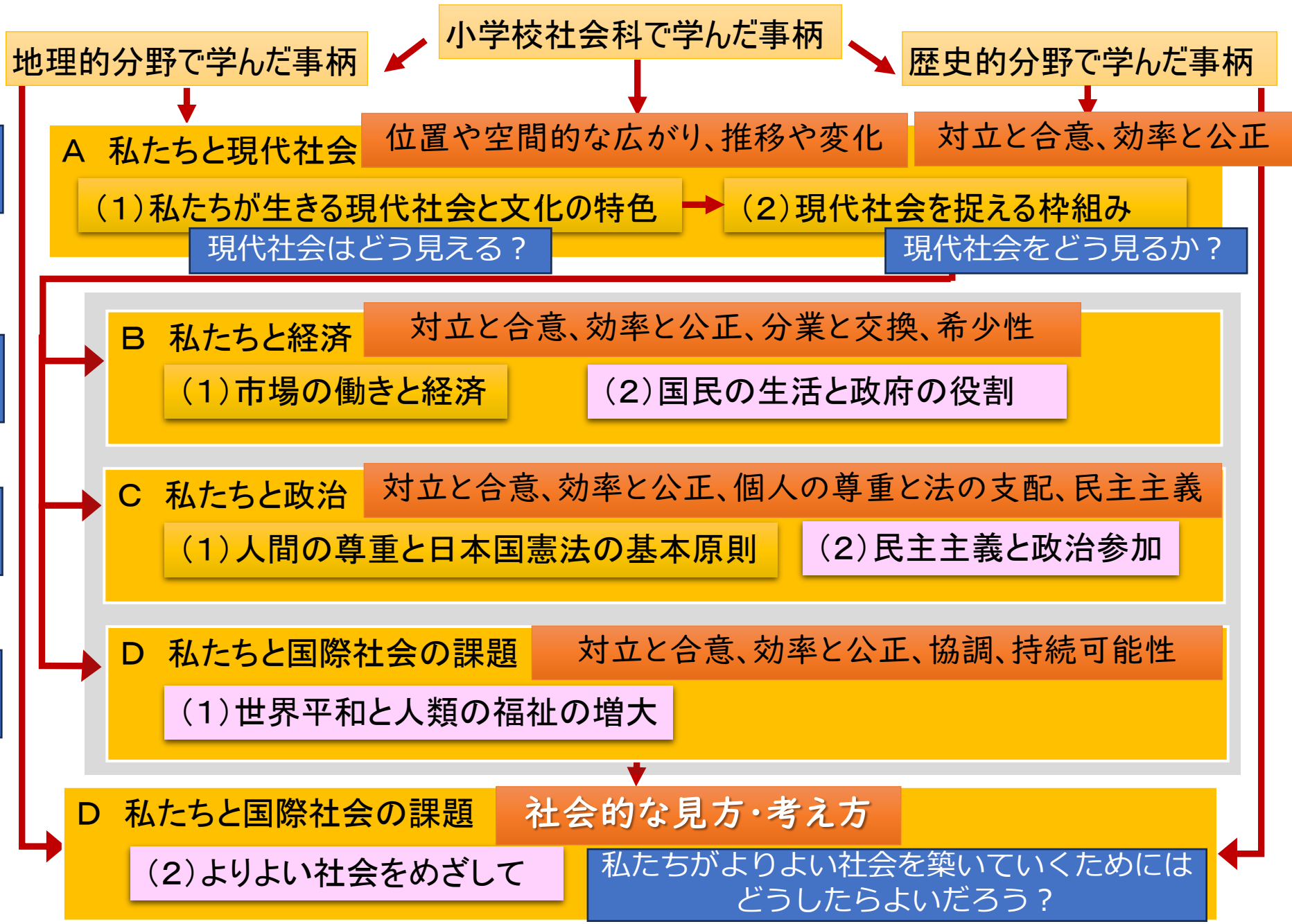
	学習活動	評価の観点	評価規準等
		知・思・態	
4 時 間 扱 い	主権や人権、平和などに関わる現代社会の諸課題について、これまで学んできた歴史の大きな流れの中で考察し、自分の考えや意見をまとめよう。その意見について互いに話し合う中で、よりよい社会の実現に向けて、続けて追究したい「問い」を提案しよう。 ① 「問い」をつくる - これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関わる現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 - グループでの話し合いを参考にして、それぞれ自分の追究したい「問い」を設定する。 ② 情報を収集し、「問い」を見直す ①の自分の「問い」について、歴史的経緯や現代への影響などの情報を収集して自分の考えを深め、「問い」を再設定する。 ③ 考察、構想した内容を表現する 「問い」について考察し、その結果を踏まえ、よりよい社会の実現に向けてその課題を解決するために必要であると考えることをレポートに表現する。 ④ レポートの成果を発表し、今後も追究し続けたい「問い」を設定する - レポートをグループで発表し、意見交換を行い、そこでの意見を踏まえ、自分が設定した課題の解決に向けて、今後も追究したい「問い」を提案する。	● ● ○ ○	● 読み取った情報や、話し合いの結果を活用して、自ら「問い」を考察し、表現している。 ● 時期や年代、比較、相互の関連や過去と現在とのつながりなどに着目して、「問い」を再度考察して設定し直し、表現している。 ○ 現代の課題について、視点をもって整理し、歴史的経緯を踏まえ、根拠を基に考察し、よりよい社会の実現に向けて構想し、表現している。 ○ 現代の課題を考え続ける姿勢をもつことの大切さに気づき、公民的分野の学習へのつながりを見いだそうとしている。

「構想（選択・判断）」が示されている項目。分野の最後の項目であり、公民的分野との接続を意識する。

歴史的分野における「構想」のワークシート例（「問い」についてのレポート作成と並行して使用）

単元の目標（※教師側の学習の目的を伝える）		
(1) これまでの3年間の歴史学習を振り返って、現在の社会でも「主権や人権、平和などの様々な課題」があること、それらを解決するための様々な人々の努力が重ねられていることについて様々な情報から、現在と未来の日本や世界の在り方について考えるための「問い」を作ろう。その問いについて考え、まとめ、他の人たちと共有しよう。 (2) 公民的分野の学習につながる現代社会に関する課題を見つけよう。		
この単元で身に付けたい力（※学習の方向性と生徒自身の目標と振り返りの設定）		
方向性	あなたの具体的な目標	振り返り
これまでの学習で身に付けた「情報を選択する」、「整理してまとめる」などの力を発揮しよう。	（※生徒の記入例。以下同じ。） ふせんを活用して、情報の整理をする。	情報の整理はできた。まとめはもう少し工夫できた。
いろいろな視点や立場、歴史的な経緯などを踏まえて、自分の意見をつくろう。	本を2冊以上読んで調べる。社会の変化や外国との関わりにも注目する。	本は4冊読んだ。社会の変化によって、文化の多様性について考えを深めた。
現在の社会で見られる課題を自分との関わりやよりよい社会の実現を目指して追究しよう。	ニュースをよく見て、関連するものを取り入れたい。	新聞記事の1つを発表に結びつけることができた。
単元の学習の振り返りメモ		
	学習で得られたこと、公民的分野で続けて追究したいことなど	達成度
調査前	現在と未来の日本や世界の在り方について考えるための「問い」 （※生徒の記入例。以下同じ。） ・商業施設に「礼拝室」が設置されるようになったのはいつからだろう。 ・なぜ、「礼拝室」が増えているのだろうか。 ・なぜ、日本のエネルギー自給率は他の先進国より低いのだろう。高めるためにはどのような方法が考えられるだろう。	
調査中	新たな疑問や追加して調べたいと思ったこと ・礼拝室が設置されるようになったのは、どのような社会の変化があったのか。 ・過去にも違う文化を持つ人たちがたくさん日本に来たことがあったのだろうか。そこではどのようなことが課題になったのだろうか。 ・これまでの日本の自給率の移り変わりはどのようなものだったのか。 ・日本がエネルギー資源を得ている国との関係は、これまでどのようなものだったのか。	
まとめ	公民的分野でも継続して考えていきたいこと ・社会の多文化化や共生社会について考えていきたい。 ・エネルギー自給率の高低よりも、どのように使用し、持続可能な社会を作っていくかについて関心をもったので、公民でも続けて考えていきたいと思う。	

中学校社会科公民的分野の学習



中学校社会科歴史的分野と高等学校必修科目との関係

歴史総合の内容項目

A 歴史の扉

- (1) 歴史と私たち
- (2) 歴史の特質と資料

B 近代化と私たち

- (1) 近代化への問い
- (2) 結び付く世界と日本の開国
- (3) 国民国家と明治維新
- (4) 近代化と現代的な諸課題

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
- (2) 第一次世界大戦と大衆社会
- (3) 経済危機と第二次世界大戦
- (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い
- (2) 冷戦と世界経済
- (3) 世界秩序の変容と日本
- (4) 現代的な諸課題の形成と展望

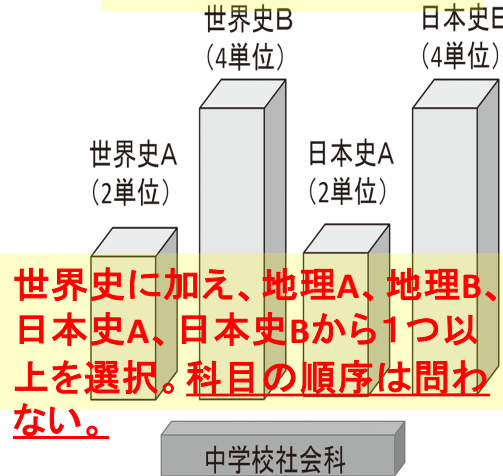
【大項目B～Dの構造】 中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、(2)(3)で以下の内容を扱い、(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

・「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学ぶ」

・高等学校歴史領域科目の基礎として「学び方」を学ぶ。・基礎としての歴史総合、その後に日本史探究、世界史探究という探究科目へ発展

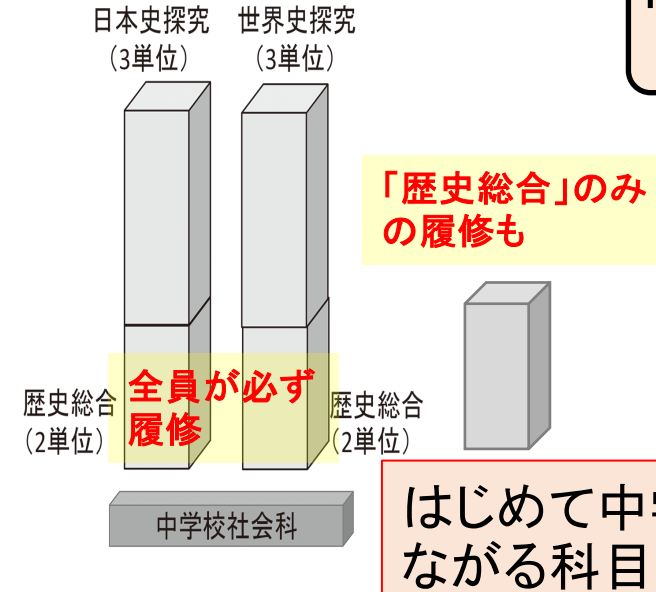
旧（H21年告示）学習指導要領 歴史領域科目の構造

（世界史A、世界史B
どちらかを必ず履修）



現行（H30年告示）学習指導要領 歴史領域科目の構造

「解説」p.123、191、271



各科目の履修については、（中略）全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、この教科の基本的な構造を留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。

（学習指導要領 第2節 地理歴史 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い1(3)）

見通しに関わる中項目(1)と振り返りに関わる中項目(4)

【大項目B～Dの構造】

中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、(2)(3)で以下の内容を扱い、(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

学習内容への
見通しをもた
せる「問い」を
表現する学習

中項目(1) 近代化への問い

小単元 1

(1) 小項目(7)

交通と貿易、産業と人口、
権利意識と政治参加や国民
の義務、学校教育、労働と
家族、移民などに関する資
料を活用し…

・資料を活用する技能を身
に付ける。

・近代化に伴う生活や社会
の変容について考察し、問
いを表現する。

中項目(2) 結び付く世界と日本の開国

中項目(3) 国民国家と明治維新

諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動
を通して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地
域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、
多面的・多角的に考察、表現し、

(2) 小項目(7)

18世紀のアジアの経済と社会

小項目(1)

小単元 2

工業化と世界市場の形成

(3) 小項目(7)

小単元 3

立憲体制と国民国家の形成

小項目(1)

小単元 4

列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容

小単元 5

などを理解する。

中項目(4)

近代化と現代的な 諸課題

小単元 6

(4) 小項目(7)

現代的な諸課題につながる
歴史的な観点（自由・制限、
平等・格差、開発・保全、
統合・分化、対立・協調な
ど）から主題を設定し、
諸資料を活用して、
追究したり解決したりする
活動を通して考察し、

現代的な諸課題の形成に関
わる近代化の歴史

を理解する。

主題を設定して、
現代的な諸課
題の形成や現
代的な諸課題
を考察、構想す
る学習

課題把握

動機付け

方向付け

課題追究

情報収集

考察・構想

課題解決

まとめ

新たな 課題

振り返り

「観点」＝現代的な諸課題を歴史的に考察するための枠組み

大項目B「近代化と私たち」

(1)近代化への問い

資料を活用し、…近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、**問いを表現する** <小単元1>

(2)結び付く世界と日本の開国

18世紀のアジアの経済と社会を理解する

<小単元2>

工業化と世界市場の形成を理解する

<小単元3>

(3)国民国家と明治維新

立憲体制と国民国家の形成を理解する

<小単元4>

列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する

<小単元5>

現代的な諸課題を歴史的に考察するための枠組み

自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調など

平等・格差



(4)近代化と現代的な諸課題

現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し、…**現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史**を理解する <小単元6>

例：産業革命に始まる工業化
→国内や国家間の経済格差

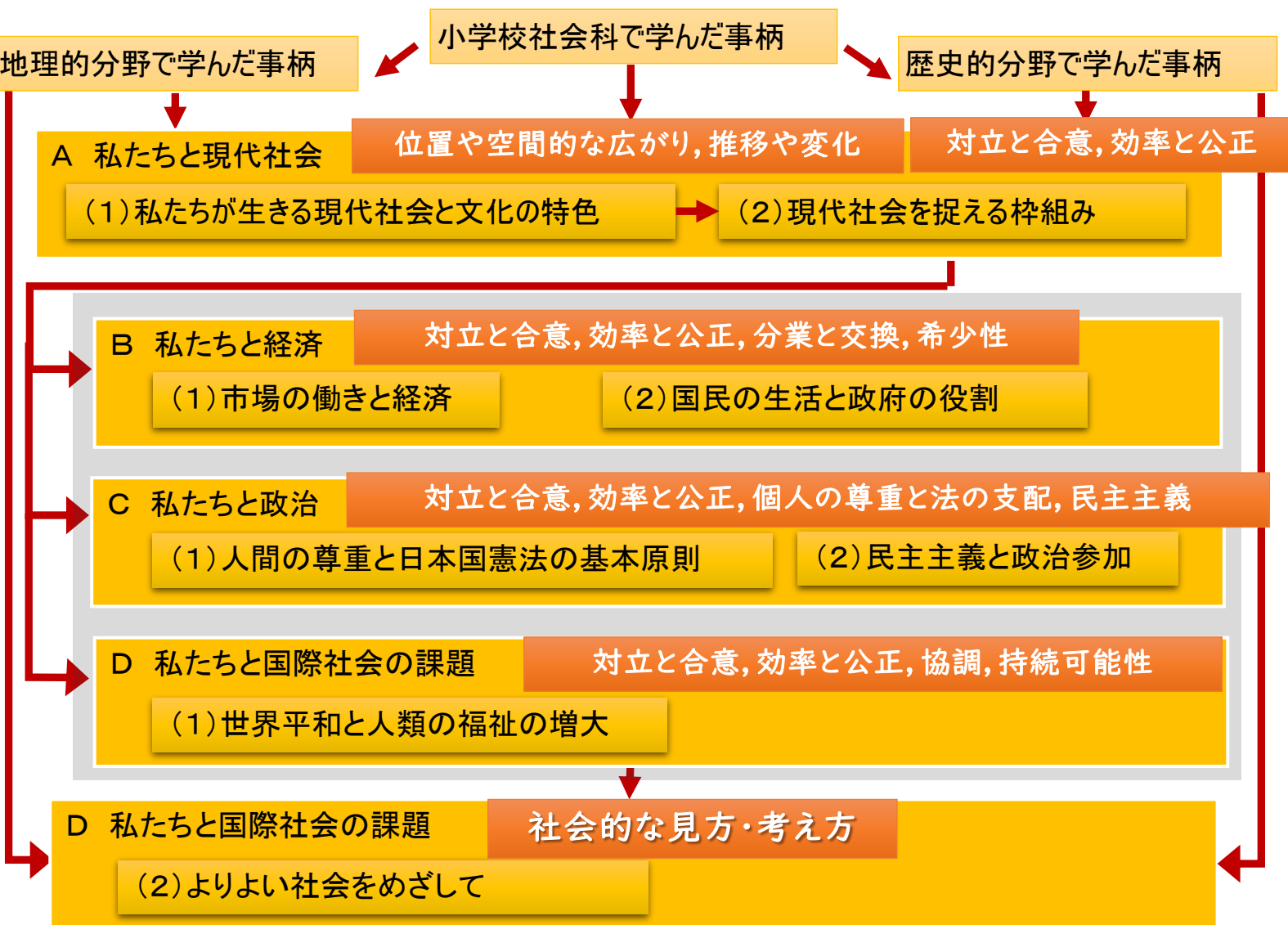
<課題（問い）の例> 「解説」p.152
産業革命に始まる工業化は人々に何をもたらしたのだろうか

<学習の例>

- ・産業革命期のイギリスや日本の都市と農村、植民地支配下のアジア諸地域の状況の比較を通して考察
- ・労働問題や社会問題が発生したことを基に、格差があるところに平等を実現しようとする思想や行動が生じることを考察し表現

中学校社会科歴史的分野から公民的分野から高等学校へ（見方・考え方）

中学校社会科公民的分野の学習の流れと各大項目で着目する概念等



**中学校社会公民的分野
「現代社会の見方・考え方」**

対立と合意	分業と交換
効率と公正	希少性
個人の尊重と法の支配	
民主主義	協調
持続可能性	

生徒は、社会的事象を概念的な枠組みで捉える学習をしている



高等学校の歴史総合においても、現代的な諸課題を歴史的に考察するための枠組み（「自由・制限」、「平等・格差」、「開発・保全」、「統合・分化」、「対立・協調」など）が活用

中学校社会科歴史的分野の学習のねらいが、高等学校の内容的な基盤へ

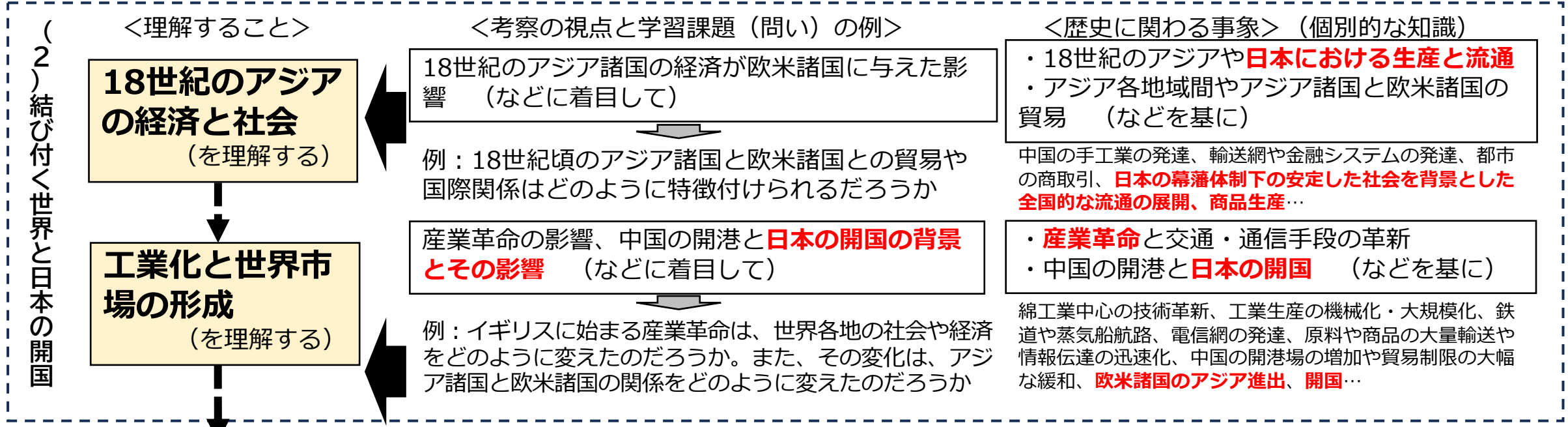
中学校社会科歴史的分野の各事項で「理解する」内容
(歴史的分野C(1) 近代の日本と世界)

C	(1)	ア	欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと
		イ	明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したこと
		ウ	立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したこと
		エ	我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたこと
	(2)	オ	(省略)
		カ	(省略)
		ア	(省略)
		イ	(省略)

中学校の学習による知識が結び付いた「理解」(学習指導要領の「～を理解すること」)が、高等学校の個別的・事実的な知識(学習指導要領の「～基に」)として活用されていく。



高等学校「歴史総合」 内容 B「近代化と私たち」 (2) 「結び付く世界と日本の開国」 (モデル図・一部)



小学校社会科、中学校社会科、高等学校地理歴史科における地理等に関する学習の流れ

小学校社会科 (地理的環境と 人々の生活)	3 年：(1)身近な地域や市の様子 4 年：(1)県の様子、(5)県内の特色ある地域の様子 5 年：(1)我が国の国土の様子と国民生活， (5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連 6 年：((3)イ(ア)外国の人々の生活の様子)
中学校社会科 地理的分野	A 世界と日本の地域構成 B 世界の様々な地域 C 日本の様々な地域
高等学校地理歴史科 地理総合	A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 B 国際理解と国際協力 C 持続可能な地域づくりと私たち
高等学校地理歴史科 地理探究	A 現代世界の系統地理的考察 B 現代世界の地誌的考察 C 持続可能な国土像の探究

生徒の学習経験を踏まえて、それぞれの学習を位置付けると、意義がより明確に